

アルフォンス・マサンバ = デバ大統領

おやさと研究所教授
森 洋明 Yomei Mori

フランス人の多くの名前が、キリスト教の聖人に由来している。かつて戸籍を管理していたのは教会だったが、フランス革命以降、それまでの洗礼名が社会の世俗化を進めていくなかで名前 (prénom) となっていくからだ。このことは植民地だったコンゴも同様で、「ピエール」や「マリー」など、フランスでよく耳にする名前が多い。

その一方で、コンゴの苗字には「Nsonga」や「Mbemba」「Ngoy」など、「N」や「M」から始まるものがあり、日本語に馴染みがないだけに、何となく「アフリカ観」を感じさせる。また、苗字によっては地域と関連しているものがあり、名前だけで出生地が分かることもある。例えば、今回取り上げるマサンバ (Massamba) などは、その苗字だけで南の部族ということが分かるようだ。

1963年8月、ユールー大統領は「3日間の栄光」と呼ばれる反政府運動によって政権を放棄したが、そのあとに大統領となるのがユールーと同じくコンゴの南部出身のアルフォンス・マサンバ = デバ (Alphonse Massamba-Débat) である。



マサンバ = デバは、1921年首都から南西約100kmにあるボコ (Boko) で生まれた。コンゴ族 (Kongo) でプロテスタントである。小学生時代をボコで過ごし、ブラザヴィルで教師としての教育を受け、実際に教員としてフランス植民地統治下のコンゴやチャドで教鞭をとった。1957年からブラザヴィルのバコンゴ (Bacongo) で教員

をしつつ、初代大統領となるユールーが創設した政党に所属し、政治活動を始めるのだった。

1959年、教育省の局長となっていた彼は国民議会の議長に選出され、初代大統領のユールー政権下で教育行政を通じて頭角を現していった。しかし、1963年5月、国民の不満の的となったユールーと決別する。そしてその3カ月後、ユールーが失脚すると、マサンバ = デバが暫定政権を担うことになる。

1963年12月8日、新たな憲法が国民投票で承認され、同日19日には唯一の立候補者だったマサンバ = デバは大統領に選出された。この時大統領が任命した首相は、90年代に入り民主化の動きのなかで選挙によって大統領に選出されることになるパスカル・リスバ (Pascal Lissouba) だった。反共産主義を貫いたユールー前大統領とは異なり、マサンバ = デバの下、国は少しずつ社会主義路線を辿るようになり、キューバや中国の影響が大きくなっていく。大統領就任翌年の2月には中国との国交を樹立、企業などの国営化を進めていくなか、それまでのフランス植民統治の影響が少しずつ薄れていくのだった。キューバの革命家チェ・ゲバラとも1965年に会っている。ド・ゴールやケネディを歴訪したユールーとは完全に異なる路線である。

中国やキューバなどの支援に支えられ、マサンバ = デバは停滞していた経済の復興や、教育・医療環境の向上などで大きな成果を上げていく。コンゴ川の河川敷に港を建設し、川を使つての物資の輸送が促進された。マッチや織物、セメントなどの工場を建設し、国の基幹産業の発展にも努めた。ダムや住宅の



ルテテ (Loutété) に建設されたセメント工場 (写真は2019年) 建設も行われ、カカオやヤシの農園なども整備されていった。さらに、学校教育にも力を注ぎ、当時コンゴは、サハラ以南の諸国のなかでは就学率が最も高くなったようだ。また、マケレケレ (Makélékélé) やタランガイ (Talangai) に病院ができたのもこの頃のことである。

その一方でマサンバ = デバは、自身の政治理念や改革路線に反対する者に対しては断固とした姿勢で臨んだようだ。最高法院長や検事など政府の要人3人が暗殺されたが、彼の指示によるものだとされている。また、彼と同じ南の部族のなかには、同胞のユールーを失脚させ自らその座に就いたことに対して、反感を持っていた者も少なくなく、反対の声が大きくなるにつれ、彼の統治は徐々に独裁的な色彩を帯びるようになっていった。

1968年1月には首相を解任し、大統領自ら首相を兼務することになった。また1963年の大統領就任に際して制定された憲法を一方的に破棄し、彼に敵対する軍の司令官であったマリアン・ングアビ (Marien Ngouabi) を逮捕した。このことがきっかけとなり、大統領を支持する側と軍の一部との間で武力衝突する事態に発展した。事態を憂慮した大統領は、すべての政治犯を釈放し、反対する側とともに新たに国作りの枠組みとして、1968年5月「Conseil National de la Révolution」(改革の国家評議会) を創設した。そこではマサンバ = デバもングアビとともに一人のメンバーとして同等の立場で加わるようになった。このときのングアビ派のなかには、現在コンゴの大統領であるドゥニ・サス = ングエソ (Denis Sassou-Nguesso) もいた。

同年9月4日、大統領の権限が失効され、マサンバ = デバはその座から失脚した。政界から退いた彼は故郷のボコに戻ったが、そこで復帰の機会をうかがっていたようだ。ただそのことが後に、彼にとってまさしく「命取り」になるのだった。

現在、アフリカの人名や地名の日本語表記にはさまざまなバリエーションが見られる。特に、日本語には存在しない「Ngouabi」や「Nguesso」など、「ン」から始まる表記に関しては、例えばガーナの初代大統領でありパンアフリカニズムの父と言われた「Kwame Nkrumah」は、「エンクルマ」や「ンクルマ」と表記されている。昨今、サッカーの世界カップなどで活躍する選手でも、「Mboma」は「エムボマ」や「ンボマ」、また「Mbappé」は「エムバペ」や「ムバッペ」などさまざまである。それはまたアフリカの地名にも言えることで、チャドの首都「N'Djaména」は「ンジャメナ」や「ヌジャメナ」などと書かれている。コンゴの現地語にも「ngolo」(力)や「nzo」(家)、「mbongo」(金)や「mpasi」(辛い)など「N」や「M」から始まる単語が少なくない。冗談でよく言うのだが、アフリカにはしりとりが終わらない国が多くある。